【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】平成17年7月14日(2005.7.14)

【公表番号】特表2001-505766(P2001-505766A)
【公表日】平成13年5月8日(2001.5.8)
【出願番号】特願平10-523408
【国際特許分類第７版】
　Ｃ１２Ｎ　15/09
　Ｃ０７Ｋ　14/47
　Ｃ０７Ｋ　14/71
　Ｃ０７Ｋ　14/82
　Ｃ１２Ｎ　 5/10
　Ｇ０１Ｎ　33/15
　Ｇ０１Ｎ　33/50
// Ａ６１Ｋ　48/00
【ＦＩ】
　Ｃ１２Ｎ　15/00　　Ａ
　Ｃ０７Ｋ　14/47
　Ｃ０７Ｋ　14/71
　Ｃ０７Ｋ　14/82
　Ｇ０１Ｎ　33/15　　Ｚ
　Ｇ０１Ｎ　33/50　　Ｚ
　Ｃ１２Ｎ　 5/00　　Ｂ
　Ａ６１Ｋ　48/00

【手続補正書】
【提出日】平成16年11月18日(2004.11.18)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】補正の内容のとおり
【補正方法】変更
【補正の内容】

適

手続補正書

平成１６年１１月１８日

特許庁長官殿

特許庁 16.11.22 出願支援課 神崎

１．事件の表示　　平成１０年特許願第５２３４０８号

２．補正をする者

住　　所　　カナダ国　ケベック州　モントリオール
シャーブルック　ストリート　ウェスト　８５３

名　　称　　マクギル　ユニバーシティー

３．代理人

住　　所　　〒300-0847　茨城県土浦市卸町１－１－１
関鉄つくばビル６階
電話　（０２９）８４１－２００１

A297 氏　　名　　~~(10297)~~　弁理士　清水　初志

４．補正対象書類名　　明細書

５．補正対象項目名　　請求の範囲

６．補正の内容　　別紙の通り

請求の範囲

1. アポトーシスを阻害または誘導する非アデノウイルス遺伝子産物をコードするDNA分子を含有する組換えアデノウイルスベクターを含む有糸分裂後のニューロンを作製する方法であって、約10から約50の感染多重度にて、該アデノウイルスベクターをニューロンの集団にインビトロで投与する段階を含み、該ベクターによる感染で、該ニューロンの少なくとも70%において形質導入が十分に達成される方法。

2. アデノウイルスベクターがレポーター遺伝子をさらに含む、請求項1記載の方法。

3. レポーター遺伝子が、アルカリホスファターゼ、クロラムフェニコールアセチルトランスフェラーゼ、β-ガラクトシダーゼ、および緑色蛍光タンパク質からなる群より選択されるタンパク質をコードする、請求項2記載の方法。

4. 非アデノウイルス遺伝子産物が腫瘍抑制タンパク質である、請求項1記載の方法。

5. 腫瘍抑制タンパク質がp53である、請求項4記載の方法。

6. 非アデノウイルス遺伝子産物が成長因子レセプターである、請求項1記載の方法。

7. 成長因子レセプターがTrkである、請求項6記載の方法。

8. 成長因子レセプターがp75である、請求項6記載の方法。

9. 非アデノウイルス遺伝子産物が、アポトーシスを阻害するタンパク質である、請求項1記載の方法。

10. タンパク質がBcl-2である、請求項9記載の方法。

11. タンパク質がBcl-xLである、請求項9記載の方法。

12. タンパク質がE1B55Kである、請求項9記載の方法。

13. タンパク質がGab1である、請求項9記載の方法。

14. タンパク質がアポトーシスを誘導する、請求項1記載の方法。

15. ニューロンが交感神経ニューロンである、請求項1記載の方法。

16. 有糸分裂後のニューロンにおいてアポトーシスを阻害する方法で

あって、アポトーシスを阻害するタンパク質をコードするDNAを含む組換えアデノウイルスベクターによって、ニューロンの集団をインビトロで約10から約50の感染多重度にて感染させる段階を含み、該ベクターによる感染で、該ニューロンの少なくとも70%において形質導入が十分に達成される方法。

17. 有糸分裂後のニューロンにおいてアポトーシスを誘導する方法であって、アポトーシスを誘導するタンパク質をコードするDNAを含む組換えアデノウイルスベクターによって、ニューロンの集団をインビトロで約10から約50の感染多重度にて感染させる段階を含み、該ベクターによる感染で、該ニューロンの少なくとも70%において形質導入が十分に達成される方法。

18. タンパク質がp53またはその生物学的に活性のある断片である、請求項17記載の方法。

19. 下記の段階を含む、Bcl-xL、E1B55K、およびGab1から選択される組換え遺伝子産物を発現する有糸分裂後のニューロンを作製する方法：

（a）該組換え遺伝子産物をコードするDNA分子を含むアデノウイルスベクターを提供する段階と、

（b）該ニューロンを該アデノウイルスベクターに感染させる段階とを含む方法。

20. ニューロンが交感神経ニューロンである、請求項19記載の方法。

21. ニューロンがドーパミン作用性ニューロンである、請求項20記載の方法。

22. ニューロンが皮質ニューロンである、請求項19記載の方法。

23. 下記の段階を含む、アポトーシスを阻害する物質を同定する方法：

（a）有糸分裂後のニューロンの集団を培養する段階、

（b）該集団のニューロンを、アポトーシスを誘導するタンパク質をコードするDNAを含むアデノウイルスベクターによって感染させる段階、

（c）段階(b)において感染したニューロンの部分集団を、アポトーシ

スを阻害すると推測される物質に接触させる段階、および

(d) 感染させ、該物質に接触させた部分集団においてアポトーシスを起こしているニューロンの概数を、感染させた細胞集団においてアポトーシスを起こしているニューロンの概数と比較する段階であって、部分集団におけるアポトーシス細胞の数が相対的に減少していれば、アポトーシスの有効なインヒビターであることを示す段階。

24. アポトーシスを誘導するタンパク質がp53である、請求項23記載の方法。

25. 下記の段階を含む、アポトーシスを誘導する物質を同定する方法：

(a) 有糸分裂後のニューロンの集団を培養する段階、

(b) 該集団のニューロンを、アポトーシスを阻害するタンパク質をコードするDNAを含むアデノウイルスベクターによって感染させる段階、

(c) 段階(b)において感染したニューロンの部分集団を、アポトーシスを誘導すると推測される物質に接触させる段階、および

(d) 感染させ、該物質に接触させた部分集団においてアポトーシスを起こしているニューロンの概数を、感染させた細胞集団においてアポトーシスを起こしているニューロンの概数と比較する段階であって、部分集団におけるアポトーシス細胞の数が相対的に増加していれば、アポトーシスの有効なインデュサーであることを示す段階。

26. アポトーシスを阻害するタンパク質がBcl-2である、請求項25記載の方法。

27. 下記の段階を含む、成長または増殖を阻害する物質を同定する方法：

(a) 有糸分裂後のニューロンの集団を培養する段階、

(b) 該集団のニューロンを、成長を誘導するタンパク質をコードするDNAを含むアデノウイルスベクターによって感染させる段階、

(c) 段階(b)において感染したニューロンの部分集団を、成長または増殖を阻害すると推測される物質に接触させる段階、および

(d) 感染させ、該物質に接触させた部分集団において成長または増殖を起こしているニューロンの概数を、感染させた細胞集団において成長を起こしているニューロンの概数と比較する段階であって、部分集団におけるTα1 α-チューブリンまたはTα1 α-チューブリン導入遺伝子の発現が減少していれば、成長または増殖の有効なインヒビターであることを示す段階。

28. 成長を誘導するタンパク質がTrkBレセプターである、請求項27記載の方法。